

超人気FP！

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS！！

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2026年7月15日

今月のトピックス 「考えたくはないが、米国株の大幅調整が円高には必要？」

円安/米ドル高が進んでいます。足下、約39年振りの1米ドル＝162円台に乗せたことはさまざまなメディアで報道されているからです。160円近辺からは「いつ為替介入があってもおかしくない」的な報道も増えていますが、仮に為替介入を行っても円安/米ドル高の流れを反転させることは難しいでしょう。市場では165円あるいは170円までの円安、あるいは数年後には200円乗せもあり得る的な予測も出てきました。為替の予測は難しく、かつなかなか当たらないため筆者の参考予測では165円ないし170円は年内にもあり得るのかもしれないと考えている程度です。1米ドル＝200円は今のところ現実的ではないと思っています。国内では当然ながら「円安、円安」と騒いでいますが、今の状況は円安というより「米ドル高」あるいは「米ドルの一人勝ち」と言っても過言ではないと思います。トランプ大統領の政策はさまざまな面で物議を醸していますが、米ドルの強さを見る限り市場は一定の評価を与えていると思われます。さらに、昨年後半から上昇に拍車がかかった金価格(*)が調整しているのは米国の経済が好調で年後半にも利上げが視野に入り、ドル指数(基軸通貨としての米ドルの国際的な価値を示すもので、円やユーロなど複数の主要通貨に対する米ドルの総合的強さを指数化したもの)が大幅に上昇したからとも言われているのです。このため円安トレンドを止めるためには「米ドル安」となる状況にならない限り難しい＝為替介入しても一時的に円高になるものの時間の経過と共に円安に戻る、つまり円安の速度を遅くしているだけに過ぎない可能性が高いのです。

米ドルが一人勝ちの背景は、先に述べたように米国経済が強く世界から投資資金などを集めて(米国に向かわせて)いるからです。象徴の1つが「スペースX」が2026年6月に米国のNASDAQ市場に上場したことです。同社は米国だけでなく欧州、日本でも個人投資家にIPO株を割り当てたのです。日本の割り当ては約3500億円でした。少なくとも10ヵ国以上から米国に投資資金が向かったのです。今後もアンソロピック、オープンAI(年内ではなく来年かも?)という大型IPOが予定されていることから、再びスペースXのような熱狂が10数ヵ国以上で起こるかもしれません。日本に限れば、スペースXのIPOの他にもNISAを通じて毎年数兆円もの投資資金が米国に向かっているのです。米国のS&P500やMSCIオール・カンントリーなどの株価指数連動の投資信託に年間数兆円もの投資資金が流れているという報道を見聞きしているのがそれです。米国経済(マーケット)の強さを考えれば、米国一人勝ちはしばらく続くと思われますが、逆の見方をすれば米国の魅力が低下すると米国への投資が減少、さらに過去に投資した資金が本国(本国)に戻る(リパトリエーション)と考えられます。あまり考えたくはありませんが、米国発の株価急落(暴落)、しかも短期的なものではなく相応の時間がかかる大幅な調整が起これば円安/米ドル高の流れが変わるかもしれません。トランプ大統領は株価を自身の功績のように考えている節があるため、同大統領下では急落はないと思いますが・・・。

(*)金価格は米ドルと概ね逆の動きをするケースが多い。